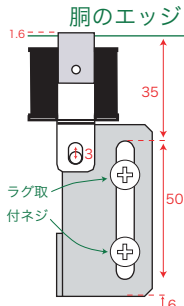


CubeMic・DW-X 取扱説明書

2010.5/27 バージョン

CubeMic・DW-X 製品保証書

【1】 取付方法と調整方法



ボルトを受ける金具【ラグ】を胴に止めるネジが、胴の内側にあり、いろんなタイプがありますが、大体ネジの太さはM4～M6迄、数は1～2個。エッジからの距離は35mm～85mmに納まる範囲である事を想定しこの金具は製作されました。更にL字型ジョイントを逆転させたり長ナットをネジ止めて工夫する事により右写真の様に、取り付ける事も可能です。ラグのネジを一回外し、取付金具をラグのネジで締め付けて、本体を固定します。そしてアーチ型に反って取り付けられている金属板【共振磁性体】のアーチ部がヘッドにちゃんと押し付けられ、且つCubeMic本体部が、ヘッド面に当たらない高さ=1.6mm程度アーチが突き出るように、設置します。左の写真が、胴から突き出た感じです。L字型ジョイントの本体取付ネジ穴の長丸



3mmを用いて、ヘッドの振幅とチューニングに合わせて、位置の微調整を行って下さい。

又、DW-Xはダブルマイクの為、両面2個の配線距離を考えて上下の設置位置を行って下さい。配線は打撃面マイクの黒線を白延長戦に繋ぎ、白延長戦のもう片方を、スナッピー面マイクの赤印線に繋ぎます。(直列配線という事になります)胴に空いた空気穴からギボシ端子のオス2本を通し、



打撃面 CubeMic の赤印線先のギボシ端子メスに
— 1 —

赤線ギボシ端子オスを、スナッピー面 CubeMic 黒線先のギボシ端子メスに白線ギボシ端子オスをしっかりと押し込んで下さい。配線した時点で、必ずジャックからアンプにケーブル接続し、共振磁性体を軽く叩き、発音の確認をして問題がない事を確認してから、全てのビニールカバー同士をしっかりと押し込んで、配線を完了して下さい。ギボシ端子は、何度も付いたり外したりしないで済む様に心掛けて下さい。

最後に打撃面ヘッドを張って下さい。打撃面ヘッドを張る際に、右下写真の様に、リムのボルト部分に、ジャック部を取付固定して下さい。DW-Xは、ハードケース、ソフトケース内に納まり、ドラムに取り付けたまま運搬・保管が出来ます。ジャック部にキャンノンメスプラグシールドケーブルを挿し込み、でアンプ、エフェクタ、ミキサー、専用オーディオインターフェイス等、音調整部に繋いで下さい。

最後に、Highleads用 MOTU オーディオインターフェイスに挿し込む場合は、スネアドラムはアナログイン2に挿し込む事により、好適な調整音となります。又、打撃面とスナッピー面のバランスをミキシング調整したい方は、DJ-Xを2個購入したり、DJ-Xと外付け式 Highleads マウントシステムを併用したりして、両面を別々に取音する事により、実現可能ですが、マイクの方向が180度逆転したりする為、位相の問題等、多少の専門知識が必要になるかもしれません。キャンノンは、XLR端子という名称であり、ライブハウスやレコーディングスタジオの業界標準仕様となっております。弊社の配線は、2番=Hot、3番=Cold、そして1番がシールドとなっております。最もスタンダードな配線ですが、もし出力音質に普段と違う異変を感じられた方は、取り付けの機器の取扱説明書などを参照し、配線2番がHotであるかどうかをご確認下さい。

コンデンサーではないので、絶対に48VはOFFで使用して下さい。

ご購入時に販売店より発行された領収書を、本保証書と共に、大切に保管して下さい。

正常な使用の元、ご購入より一年以内に修理が生じた場合、本保証書と販売時の領収書を提示する事により、購入された販売店様経由にて、無償修理をさせていただきます。

但し、乱暴な扱い、本取扱説明書で禁止されている使用により生じた故障、分解改造等、故意に為された破損に対する修理及びサポートは、一切行いません。又、輸送、移動、落下、火災、風水害、地震等に由り生じた故障も対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承の程、お願い申し上げます。

製造元	: 株式会社ハイリーズ
所在	: 東京都八王子市裏高尾町 190 番地 5
電話	: 050-3391-9719
ホームページ	: http://highleads.jp/
お問い合わせ先	: master@highleads.jp

【2】 音の処理に関して

音の処理は、個人の好みで別れる部分ですが、特徴としては、ピックアップで取音された音は、中音部が張っており、高音部が小さくなっている為、中音部(500Hz～900Hz)を下げると良いかもしれません。更に低音を持ち上げると、ドラムの残響音を強調出来ます。細かい設定が可能な場合、バスドラムは40Hz～60Hz。ロータムは70Hz～100Hz。ミッドタムは120Hz～160Hz。ハイタムは180Hz～230Hz辺りを持ち上げてみると、良い残響音を見つけやすいかもしれません。高音部は、スネアの様に、スナッピー音を強調したい場合は、5kHz～9kHz辺りを上げると良いですが、普通のドラム類は好みで別れると思いますので、自分でいろいろと弄ってみて下さい。

【3】 注意事項

1. 共振磁性体は薄い金属板ですから、横から強く指で持ったまま指を移動すると、指が切れる場合があります。くれぐれも取り扱いには慎重にして下さい。
2. ギボシ端子のオスとメスを接続した後に、ジャック側から配線を強く引っ張ると、配線が断線します。ピックアップとジャックの位置は、配線の余裕が出来る距離に位置決めし、最後にギボシ端子をはめ込みましょう。
3. 電源アダプター、電源ユニット、蛍光灯等が近くにあると、ピックアップがノイズを拾います。ノイズの原因となるものからは離しましょう。
4. ピックアップ本体は、絶対に分解しないで下さい。
5. ピックアップ本体に、テープ補強をしておりますが、音質に影響はありません。
6. ユニバーサル取り付け金具の寸法的に、そのまま良い位置に行かない場合でも、L字型のジョイントを逆にしたり、ネジや長ナット等で補強する事により、ベストな位置に、Highleads マイクを設置出来る場合があります。